

教育目標：心豊かに たくましく伸びていく子供



干布小学校だより

10月号 H30.10.12

天童市立干布小学校

校長 三好 義宏



後期スタートの決意



10月1日は、二期制の始業です。始業式では、3年生と5年生が代表として、後期に向かう決意を、しっかりと発表しました。日々の授業の積み重ねで培われる知恵と、行事や活動で得る貴重な経験との両輪で学校生活を豊かにすべきことを、二人は示してくれました。二人の発表の全文を紹介します。

「後期がんばりたいこと」

3年 茂木 然

前期が終わり、いよいよ今日から後期が始まります。後期には、前期になかった学習が、たくさんあります。マラソン大会や、学習発表会など、それぞれの学年で、いろいろな学習があります。

ぼくが後期でがんばりたいことは、二つあります。一つ目は、マラソン大会です。理由は、これまでマラソン大会に向けて、いろいろな練習を重ねてきたからです。朝や中間休みに走り方や、いきのはき方など、いろいろな工夫をして練習してきたので、そのせいかを出して、ベストタイムを出したいです。二つ目は、書き初めです。ぼくは、これまで筆を使う時、持つところがゆれて、安定させることがむずかしいので、そこに注意して練習したいです。

このような行事では、今まで知らなかった学習ができるので、とても楽しみです。三年生のめあてである、「まず、やってみよう。」という気持ちで、いろんなことに挑戦したいと思います。そして、楽しく後期のスタートを切れるようにしたいです。

「後期にがんばること」

5年 日向 響輝

五年生の後期が今日から始まります。自分にとって充実した後期にするために、がんばりたいことを五つ決めました。一つ目は、自分から行動することです。どうしてかという、五年生は、様々な場面で六年生をサポートしなければならないからです。行事の準備でつえやいすを出す時などには、たのまれた仕事はすぐ終わらせ、終わっていないところを自分で見付けて、手伝いに行きたいです。

二つ目は、がまんする力をもつことです。ぼくは、いらついたりする時にがまんできなくなって、口で強く言うてしまうことがあります。だから、いらついた時でも自分をコントロールできるように、気を付けていきたいです。

三つ目は、集中力を付けることです。ぼくは、授業中に集中が切れてしまって、後ろの席の人としゃべってしまうことがあります。もう五年生だし、学級目標にも「学習集中」があるので、もっと集中して授業に取り組んでいきたいです。

四つ目は、ルールを守ることです。学校のルールで特に忘れてしまうのは、「ろうかを歩く」ということです。中間休みになるとウキウキしてしまい、ルールを忘れてすごいスピードで走ってしまいます。それが一年生にもえいきょうしてしまい、一年生もろうかを走ってしまうことがあります。そうならないように、高学年の自分たちがきちんと歩いて、一年生に教えてあげたいです。

五つ目は、六年生になったつもりで過ごすことです。委員会活動など、さまざまな場面で六年生の姿をよく見て、六年生の活動の仕方や大変さを学んでいきたいです。そして、自分が六年生になったつもりで、責任をもって取り組んでいきたいです。

この五つのことを意識して生活し、六年生に向かうこの時期を、大切に過ごしていきたいです。

後期の始まりにあたって私からも、がんばって欲しいこととして、コツコツじっくり取り組むこと、ワクワクドキドキしながら挑戦してほしいこととお話しました。別の言い方をすれば、日々の努力を忘れずに継続すること、行事やイベントで集中力をもって取り組むことの二つです。

天童市子ども議会（模擬）に学ぶ

10月7日は、市制施行60周年を記念した天童市模擬議会が開催されました。本校からは、代表の6年生水戸部紗彩さんと担任教員が参加してきました。

質問項目は「市立図書館周辺のカラスのふん害について」「プラスチック製ストローの使用廃止について」の2点です。身近なことをよく見つめ、問題意識をもち、改善策を堂々と質問してきました。答弁は、現役の市議会議員が行ってくれました。児童会の要として活動する紗彩さんにとっては、次へつながる経験となりました。

地区児童生徒理科研究発表会に学ぶ

10月10日に、長岡小学校で理科研究発表会が開催され、校内審査を経た3名が参加してきました。

4年生の須藤新太さんは「干し野菜の作り方」を、5年生の吉田遼亮さんは「シャボン玉の研究」を、6年生の水戸月菜さんは「キレイな二層のカフェオレ作りの研究」を発表してきました。他校の児童6～7名と長岡小6年生のお手伝い5～6名と、多数の保護者の皆さんの前で、自分の研究を分かり易く伝える姿がありました。

部会ごとに、助言者の先生から、研究の頑張りや今後の期待などを話していただき、自分の力の高まりを確かめました。

校内マラソン記録会に学ぶ

学校行事では久しぶりの青空に恵まれ、マラソン記録会を実施しました。当日は、スポーツ21世紀協会の齊藤梓さんを講師に迎え、速く走る3つのコツを教えただき、3・6年生では子供たちを引っ張る前走も務めてくださいました。子供たちは、真剣に最後まで走り抜きました。

<学年1位でメダルが授与された児童>

1年 はなわはると・ほりあすみ

2年 もりや こお・はなわさち(新記録)

3年 大井 惣壺 ・矢野こはる

4年 佐藤 大斗 ・日野 珠利

5年 水戸部東次(新記録)・花輪優芽

6年 花輪 咲斗 ・安達 埜亜



干布小学校 公開研究会で学ぶ

市内の小学校は12校で、毎年1～2校が公開研究会を発表しています。本校では、平成22年に実施して以来ですので、8年ぶりの開催となります。

教育の指針である『小学校学習指導要領』が文部科学省より新たに示され、平成32年度から大きな変更があります。その変更に応じて子供たちに、何ができるようにしたいのか、どのように学ばせるのか、何を学ばせるのかを研究しております。

お家の方のご協力で、10月17日に約230名の教職員をむかえて、実施の運びです。

地域で子供を育てていただいていると感じることがあります。干布地区の夏祭りでは、浴衣を着て『まわせ!』を踊る子供たちの姿は、とても生き生きしていました。地区のレクリエーション大会では、各地区の役割を担い、楽しみながら参加する様子が見られました。市制施行60周年「二千局盤来」には、保護者の方の協力もいただきながら、数多くの子供が参加することとなりました。先日も、地区内に住む将棋連盟役員の方に講師をお願いし、急きょ「干布将棋道場」を開催し将棋を楽しむことができました。

他にも、スポーツ少年団やクラブチームでの活動でも、児童を育ててもらっているようです。大人が子供を育てる姿は、きっと今の子供たちの心に焼き付き、次の世代として引き継がれるのでしょうね。